

ギュー GEW

10 OCTOBER
2023
vol.548
gew.co.jp

業界で 斑模様の SDGS

SPECIAL
FEATURE

ゴルフ市場で
理解進むか?



Golf Course

INSIDE STORY

ゴルフ場の人手不足は深刻だが、一方で、この業界は真剣に求人をしているのか？ との声もある。栃木県で3コースを運営する鹿沼グループでは、

「インターンシップをやったんですよ。最初、学生さんはキョトンと座ってましたが、次第に笑顔になって安心しました」（福島範治社長）

8月21日〜23日の3日間、尚美学園大学（埼玉県川越市）と連携しての試みだった。きっかけは、

「新卒採用に向けて、県外の大学と接点をもちたかったんです。調べたら、埼玉の尚美学園にスポーツマネジメント学部があって、大学の就職課に飛び込んだら単位取得型のインターンシップ制度があった。それで我々の職場を提案したんです」

当日は、スポーツマネジメント学部の3年生3名が参加した。初日は鹿沼72CCでゴルフ場の知識と歴史、レストランでの食育実習を経てコースでプレー体験。2日目は栃木ヶ丘GCでフロント、マスター室、レストラン、コース管理などの職業体験。最終日は鹿沼CCでデジタルマーケティングとレベニューマネジメント講座等を学び、最後は学生が「ゴルフの新ビジネス」をプレゼンして終



07 大学に飛び込み求人活動 鹿沼のインターンシップ効果

ゴルフ場で大学3年生がインターンシップ

了となった。

「講師はすべて従業員が務めました。が、我々もゴルフ場の仕事を見直す良い機会に。学生の反応が良くてやりがいもあったし、逆に若者の視点で新たな学びになりました」

鹿沼グループは15年前、民事再生から自力で再建。それを機に経営方針を刷新して、新卒採用を積極化した経緯がある。

「今はスタッフの4割が新卒組です。ゴルフ場の新しい魅力を発信するには、新鮮な発想の新卒組が不可欠で

あり、将来の幹部候補生になってもいい。インターンシップはその一環だと考えています」

大半の学生は、ゴルフ場での仕事内容を知らない。日本ゴルフ場経営者協会の大石順一専務理事は、「綺麗な建物やフェアウェイの写真を見て入社したら、現実との差に落胆するケースも多いようです」と話しているが、福島社長も、

「まずはゴルフ場の仕事を認知させること。そこから変えなければ」と、次策を練るのである。（吉村）



クラブ振動数計 V-3
クラブを振った時の感覚やフィーリングを数値で示す

スウィングバランサーD
トータルウェイトも測れる小型軽量の高性能モデル



スウィングバランサーL
電気を使わないシンプル設計の最高級モデル



スウィングバランサーII
手軽にバランス測定ができる個人用モデル



株式会社 三光精衡所
<https://www.sanko-s.jp/>

〒125-0042 東京都葛飾区金町2-1-1
TEL (03) 3607-2328 FAX (03) 3607-2348



SPECIAL FEATURE

らその点に着目して、商品開発をスタートしています。近年は活動が注目されて、様々なプロジェクトに参加する機会も増えました」

今もグリップ交換では、人体に有害なホワイトガソリンを使用したり、換気が不十分な作業場もある。大道社長の着眼は、そのあたりの改善を狙ったものだ。

SDGsを近視眼的に 利用しない姿勢も大事

世界で事業展開する大手企業も本腰を入れる。ヤマハグループは2021年にサステナビリティ委員会を設置して、翌年からの中期経営計画で「環境」「社会」「文化」について経営目標を掲げている。その一項に「心潤す音楽文化の発展」があるのがヤマハらしい。近年はパーパス経営が注目されるが、SDGsは格好のパーパス（存在意義の源泉）にもなってくる。

同社のゴルフHS事業推進部も2022年からサステナビリティ推進チーム（約10名）を発足。通常業務の一環として活動し、四半期に一度、事業部内で報告会を行う。テーマは①試打済み、中古、B級品クラ

ブの再利用、②3Rとサキュラー素材の活用・設計、③梱包材の脱プラと省資源化などで、①では不用品クラブを学校へ寄付したり、今年発売のアイアンシャフトに着脱可能な機能を設け、試打等での使い回しで余分な使用量を減らす。

「持続可能な社会の実現に向けて社会価値を創造できれば、中長期的に企業価値が高まるはず。これによりゴルフ界にクリーンなイメージが醸成されれば、若者や女性の市場参入も後押しできると思います」（本村芳治事業推進部長）

住友ゴム工業も全社的な取り組みを行っているが、ゴルフを中心とするスポーツ事業部では、「2019年頃から議論を始め、翌年プロジェクトを本格化。ゴルフ、テニス、ウエルネスで部門横断的な会議を年4回開催し、商品別の分科会も適宜個別に行っています」（平野敦嗣広報部長）

特筆すべきはゴルフ、テニスのボール原材料にバイオマス+リサイクル素材の比率を高めたこと。「土に還るボール」が商品化できれば、競合他社を大きく引き離せる。

包装材や商品パッケージに使用するヴァージンプラスチックの削減、温

室効果ガス排出量も削減した。R&D部門でスポーツやタイヤの技術交流を深める同社は、素材開発に一日の長がある。その技術を活かした包装材などを業界に提供すれば、企業価値は高まるはず。

「SDGs活動ができないと、いずれ淘汰されてしまふ。業界の浮沈にも関わる話です。1社では無理でも全体で力を合わせれば、実現できることは多いはず」（平野部長）

SDGsの17番は「みんなと一緒に実現しよう」。競合の壁を越え、大手が中小を支援できることもSDGsの醍醐味と言える。

栃木県に3コースを展開する鹿沼グループの福島範治社長は、「特にSDGsは掲げません」

という。同社は15年ほど前に民事再生となり、そこから自力再建した稀有なゴルフ場。その立役者が福島社長だが、同氏はなぜ、SDGsを掲げないのか？

「SDGsは手段であり、目的化しないこと、目先のことに利用しない姿勢が大事と考えるからです。温暖化や人口減少の影響を受けるゴルフ界が持続可能な経営をする上で、みんながSDGsに取り組むことは大事でも、当社は掲げません」

時流に流されず、しかし、肝は抑えるという姿勢だろう。

実際、同社の経営は綿密な事業構造の上に成り立っている。経営哲学として「自然」「地域」「人」を掲げ、主に4つの活動に注力する。

①社会・地域貢献活動、②鹿沼市ゴルフ場協議会活動、③地産地消活動、④地域顧客向け活動だ。

①は自治体と連携して、尺玉をあげる大規模な花火大会を開催し、見晴らしの良い高台の席を有料化。約500人を集客して寄付金に。地元対象の婚活イベントや、ふるさと納税の対象品を企画して800万円の納税実績も。③は地域農産物の販売や名産品をレストランメニューに活かし、環境保全活動ではランドリーバッグの作製で、浴場のビニール袋削減を積極化。グループ全社で使用済み食料油をリサイクルした石鹸を設置するなど徹底している。

「ゴルフ場は移転できないビジネスで

業界で斑模様 のSDGs ゴルフ市場で 理解進むか？

す。地域との共存共栄、地域に愛される存在として永続する活動をやり続け、その結果、SDGsに連動しているのが望ましい」

SDGsは、手段であって目的ではない。福島社長は改めて、そのフレーズに力を込める。

業界団結の旗印に SDGsを掲げる

ゴルフ産業の特徴は、多様なコンテンツを有するところにある。プレイヤーは健康、社交、接待、自然観賞、競技、デートなど多種多様。それだけに、社会貢献活動とも多様な接点が生じてくる。

屋内ゴルフ施設のチェーン化を進めるスイングファクトリーの小竹貴之社長は、本業とは別に、障がい者にゴルフ体験を促すジャパン・ゴルフ・ティーチング・フェデレーションの会長を務め、レッスンプロなど

賛同者40名と奮闘中。

「障がい者や児童施設の子供にゴルフ体験をしてみよう活動です。『障がいスポーツ指導員』の有資格者もあり、コロナ前は月2回の練習と、年2回の薄暮プレー。会場は丸の内G（千葉県）を借り、メンバーのボランティア協力が得られました」

きっかけは、障がい者ゴルフの世界大会を観戦したこと。身体的ハンディをもとせず、果敢にプレーする姿に感動したという。

この活動を通じて考える、同氏のSDGs視点はユニークだ。丸の内GCの会員から協力を得た経験は、ゴルフ場の会員制度の弊害を払拭するヒントになると指摘する。

「いろんなゴルフ場のメンバーで、高圧的な人を見掛けます。プレーに手間取る初心者に対し、威圧的になることもある。こういった風土を改善するには、メンバーがスタッフと一緒にボランティアで芝の整備をしたり、運営側の仕事を体験することも必要でしょう。自分が整備したコースをゲストが楽しそうにプレーするその姿を見れば、ゴルフアールとして喜びを感じるのでは」

この指摘は意味深だ。ゴルフ界は新規ゴルフアールの開拓に躍起だが、

プレー人口が伸びない一因に、上級者が初心者を威圧するゴルフ界特有の空気がある。前の組が遅いと後続の組が巻き添えを食う。渋滞はコース運営に支障を来たため、随所に「プレイ・ファースト！」のポスターが掲示される。そんな業界風土を放置したまま新規開拓もないが、小竹社長の指摘はこれを指す。

自分が空振りでも、同伴プレイヤーがナイスショットした場所から打てるプレー方法もあるが、業界全体で広げる意識は育たない。団結の意識が希薄な業界なのだ。

前出のアドウエル・富山社長が業界団結の重要性をこう話す。「今夏の猛暑を、団結のきっかけにすべきです。氷嚢用のクーラーボックスを全コースの全ホールに設置する。製氷や猛暑対策の費用は、利用税の一部を国と交渉して戻してもらおう。団結しなければ、ゴルフの持続可能性はなくなりませよ」

水の話も、環境の話も、ゴルフ界が団結しなければ始まらない。日本自然保護協会の亀山理事長に「ゴルフは自然保護に役立つ」と書いてもらい、全国のゴルフ場や練習場専門店等に貼ったらどうか？ゴルフのイメージは一変する。